

日光市の文化財 34

法華題目塔道標

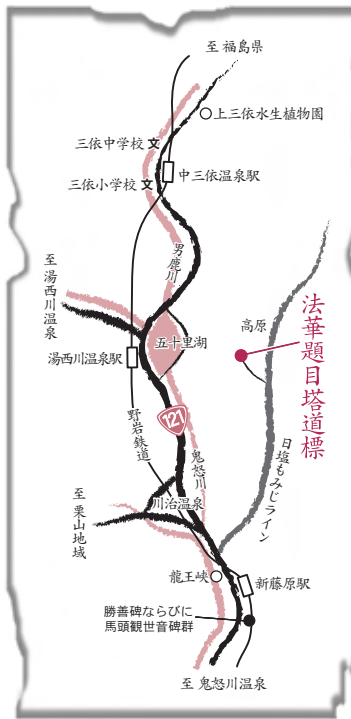


【種別】有形民俗文化財  
【所在】日光市高原新田  
昭和49年9月14日旧藤原町指定

法華題目塔道標は、旧会津西街道における会津道と塩原道の分岐点に建立されたものです。中央部には、「南無妙法蓮華經」と日蓮宗の題目が大

きく刻まれており、旅行者の安全を祈願したものと考えられています。道標の正面には、万治三(一六六〇)年の銘があります。この年は会津藩が山王峠の大規模な拡張工事を行った翌年に当たります。この工事によって会津地方との商品流通が活発になったと考えられており、道標は、そのような事情を背景に建立されたものとして、資料的価値を持っています。

また、伝承によれば、この碑の建てられた高原新田宿は、承応年間(一六五二〜一六五四年)の地震で温泉の湧出が絶えたために移住した、塩原村の六戸と先住の香取氏によって形成されたとされています。建立年代はこの時期にも近く、高原新田宿の成立を考える上でも、基礎的な資料となっています。



このコーナーでは、市で所有する絵画を紹介します。

GALLERY 11

「日光」



ヘレン・ハイド作 紙・水彩 49・4 cm × 27・2 cm  
小杉放菴記念日光美術館所蔵

ヘレン・ハイド(1868〜1919年)は、アメリカ生まれの女性版画家です。日本の研究者でもあった画家のフェリックス・レガメーの影響で日本に強い関心をもつようになったハイドは、1899年から1914年までの約15年間にわたって日本に滞在しました。この時に、来日中のエミール・オルリクやバーナード・リーチから指導を受け、日本の子どもや女性を主題とした木版画・銅版画作品によって、国際的に高い評価を得ていきました。薪を背負った二人の人物が、大きな杉に挟まれた道をゆっくりと降りてくる、本作のような生活の何気ない一場面を描いた作品は比較的珍しいものです。おそらく、二荒山神社別宮の滝尾神社へ続く参道あたりではないかと思われます。絵の左下に「Helen Hyde Nikko 190?」とあり、最後の数字はこすれて判読できませんが、1907年に日光で描かれた水彩画が数点確認されており、この時期、日光で精力的に水彩画の制作に励んでいたことがうかがえます。日光へは、たびたびスケッチに訪れていたといわれていますが、詳しいことは分かっていません。こうした一点一点の作品を追跡していくことで、ヘレン・ハイドの足どりが明らかになっていくことが望めます。

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

色白の雛愛でながら厚化粧  
大堀 満  
日向ぼこ運動不足気にしてる  
白土武夫  
散策に心も晴れて藤見酒  
岩崎節子  
飾り雛誰を寄せてか早春賦  
櫻沢あき子  
日の目見て町興こしする古代雛  
篠原芳子  
挨拶をクシヤミで返す花粉症  
塚原トモエ  
無になれず壁に向ってひとり言  
芳野起代子

俳句 選者 伊藤 清

御神籤に一蓮托生初詣  
渡辺ミチ子  
初詣今ある生を有難く  
上山淑子  
風の日の枯木に一志ありにけり  
名古屋佳子  
柚子さざむ忽ち香る厨かな  
福田美代子  
初市や露店賑はう人出かな  
櫻澤総一  
初景色今日の男体神と見て  
酒井智恵子  
十二単まとひて目覚む露の臺  
北崎 君

危機管理とは...

ある日、通りがかりの旅人が、宿屋の主人に「煙突が曲がって火の粉が飛んでいますよ。危ないです。いまのうちに積んである薪を移しておいたほうが良いのではないですか」と助言をされました。ところが、主人は、「うるさい。よそ者はよけいなことを言うな」と一言いったきり、相手にもしませんでした。すると案の定、火の粉が薪に燃え移り、宿が火事になってしまいました。そこへ通りかかった別の旅人が、火に頭を焦がし、額をただれさせながら、必死に消化活動を手伝ってくれます。やがて無事に火事は収まりました。宿の主人は感激し、この旅人を手厚くもてなしました。



図書館へ行こう!

この故事は、危機管理の基本を極めて適切に指摘した例え話です。この場合、本当に評価されるべきなのは「薪を移す」ことを進言した旅人なのです。この旅人の言うことを聞いていれば、火事などにはならなかったはずなのです。それにもかかわらず、現実には、事態の発生を予防する者を評価せず、何か事故が発生したときに派手に立ち振る舞う者を優遇してしまうことが数多くあります。事前に手を打って予防をすることこそが、危機管理の上で最も重要なことなのです。

ところで、この例に限らず、中国の古典を熟読してみると、非常に豊富に富んだ内容がたくさん網羅されており、現代にも通じる数多くの教訓が、含まれています。

皆さんも、この機会に中国の古典を読んでみませんか。新しい発見があるかもしれませんよ。

短歌 選者 阿久津伸一

希望の灯メッセの海に探してた亡母との時間が過去になりたり  
関根眞佐子  
金色の初日の光に家々の玻璃戸は輝く村中まばゆし  
根立郷美  
立ちのぼる湯気の向こうに母の顔正月餅を二人でつきぬ  
狐塚昭子  
今朝の膳若菜のかおりたちこめる大地の恵み一椀に盛る  
北崎 君  
極月と思えば川の流れにもどこか急ぎて行く風情あり  
白土武夫  
輝ける瞳の奥に未来をば夢見て走れ更生の道  
星 恭子  
寒の日を身体に受けて急ぎ足街路のパンジーに励みをもらふ  
大森トミ子

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。

応募先及びくわしくは  
秘書広報課 広報広聴係  
☎(21)5135・FAX(21)5109